

大阪大学外国語学部外国語学科朝鮮語専攻 桧山寿々香

私が韓日未来フォーラムに参加したきっかけは、友人の紹介だった。大学では朝鮮語を専攻しているが、日常の中で実際に韓国人と韓国語でコミュニケーションをとったり、交流したりする機会は少なかった。夏に授業の一環として日本を訪問している韓国人学生と交流する機会があり、そこで初めて、習った韓国語を使って会話することができた。授業で学ぶ以外の日常生活の話などをたくさん聞くことができ、とても良い経験になったので、今後このような交流の機会があれば積極的に参加しようと思い、友人の紹介を通してこの韓日未来フォーラムに参加した。

このフォーラム全体を通して感じたことは、まず一つ目は、韓国人学生の政治への関心の高さだ。チームでの討論を通して、韓国人学生は自分の国の政治について興味がある人が多いと感じた。ニュースを見るのが好きで時事問題に詳しい人や、また、歴史について詳しい人も多かった。発表後の質疑応答の時間にはたくさんの質問があった。韓国ではこういう見方がされており、日本ではこうだと聞いたが実際はどうであるか、など両国の事情を踏まえた上での質問もあり、非常に感心した。日本人学生は選挙権こそ 18 歳で得られるようになったも

の、一般的に若者は政治への関心が薄いように思われる。私自身も政治にあまり興味がなく、ニュースは見ているけど時事問題について詳しく調べたり、新聞を読んだりすることはほとんどない。しかし韓国人学生の政治的関心の高さや、自分の国の政治情勢を他人事にせずを考えている姿勢を見て、これからの日本の未来を背負っていくのは今の若者であり、自分たちの投票や意見が日本を形作っていくのだと再認識した。自分の国について無知であるのは恥ずかしいと思い、最低限の時事問題は知っておくべきだと思った。二つ目に、言語の壁があってもコミュニケーションは取れるということだ。学生の中には二か国語ともに堪能な人も多かったが、全くわからないという人もいた。私も韓国語を完璧に理解できるわけではなかった。しかしチームで食事に行ったり遊びに行ったりした自由時間は非常に楽しいものだった。知っている単語だけでなんとか言いたいことを伝えたり、身振り手振りで表現して伝えたり、時には英語を使ってコミュニケーションをとったりもした。完璧に話せなくても、伝えようという姿勢がもっとも大事だと思った。私は高校生の際にスコットランドに3週間語学研修に行き、外国人留学生と交流する機会があったが、その時は文法的な正しさを意識しすぎてなかなか交流することができなかった。日本人学生は正しい外国語を

話そうとして言いたいことをうまく伝えられない人が多いのではないかと思う。

その後悔を糧にして、今回のフォーラムではたくさんの人と積極的に話ができ、改めて言いたいことを伝えようとする姿勢の大切さを知ることができた。また、自由時間には美味しい食べ物のお店や、お酒の飲み方、学校生活や軍隊の話まで色々な話が聞けた。特に日本にはない兵役制度についての話は興味深かった。授業では学べない韓国人の私生活の話聞くことができ、非常に面白かった。もちろん、韓国語の勉強にもなった。辞書には出てくるけれど実際はあまり使わない単語があったり、日本語には翻訳することが難しい独特のニュアンスの単語があったり、まだ聞いたことのなかった言い回しやスラングまで学ぶことができた。

私はこのフォーラムに日本軍慰安婦チームとして参加した。その討論を通して学んだことがたくさんある。最も印象的だったのは、日韓の認識の違いだ。私は今年の9月から韓国に留学する予定で、そこで日韓問題について韓国側からの見方を学びたいと思っている。今回の討論はその土台となった貴重な話し合いであった。まず、慰安婦問題について両国民の間に関心の差があった。両国とも慰安婦問題について詳しく教育を受ける機会がなかったことは共通していた。

しかし、日本では慰安婦問題があることは知っているものの、どのような事実があったのかは知らない人も多い。一方で韓国では、国民として知らないと恥ずかしい問題として捉えられているようだ。このように慰安婦問題に対しての関心が韓国人の方がかなり高く、より深刻な問題として捉えられていることがわかった。そして、歴史的な認識についても差があった。まず日本では慰安婦問題について日韓合意で解決したものであり、財団を支援したり河野談話で正式に謝罪したりして解決手段をとったという見方がある一方、韓国では、日韓合意には国民には知らされていない条項があり、政府が秘密裏に合意したものである、河野談話については知らない国民が多いということがわかった。このような国民の認識にはニュースや新聞などのマスメディアが大きく関わっているが、両国ともに自国にとって都合の良い部分を誇張して報道しているように思った。このような認識の差を踏まえ、私たちのグループでは、自分たちにできることはお互いを納得させたり論破したりすることではなく、事実を多くの人に知らせることだという結論に至った。方法として Youtube を使って発信するという意見にまとめ、結果として非常に良い発表になったのではないかと思う。実際に動画を作ることができたら一層良かったのだが、時間の都合もあり、既存の似たよ

うな動画を引用することで精一杯だったため、少し残念だ。チームの討論では両国の学生が積極的に意見を交わすことができた。発表の方向性も1日目の夕方には決まっており、スムーズな司会をしてくださったチームリーダーをはじめとして、各メンバーのおかげで非常に余裕を持って丁寧に取り組めた。

2泊3日という限られた期間ではあったが、たくさんの出会いとたくさんの学びがあった。これから韓国に行ったときや日本に来たとき、必ずまた会いたいと思う友達ができ、留学での研究テーマに近いことも学ぶことができた。この経験を無駄にせず、これからの学びの糧にしていきたいと思う。